

ジョイセフ・パートナーシップ・プログラム (JPP) アフガニスタン 妊産婦と女性を守る保健推進プロジェクト 2014 年報告書



プロジェクト期間：
2014 年 1 月～12 月

プロジェクト地域及び人口：
ナンガハール州ジャララバード市
内の 10 村 3 万 3200 人

現地協力団体：アフガン医療連合
センター (UMCA)

支援協力：三菱東京 UFJ 銀行及び
三菱東京 UFJ 銀行社会貢献基金、
全国電力関連産業労働組合総連
合、公益財団法人ベルマーク教育
助成財団他、企業・団体・個人か
らの寄附金



教育や保健医療、経済をはじめ様々な分野で、アフガニスタンの女の子や女性が置かれた状況は改善してきました。

しかし、差別や偏見、また慣習に根差した課題はまだたくさん残っています。

女の子は学校に行かなくてもよいと考える人々がいます。女性の医師や医療従事者がいなければ、女性は病院で診療を受けることができません。



このような背景の中、ジョイセフは、プロジェクト地域で母子保健クリニックを運営し、女性医師、看護師、助産師が中心となり女性と妊産婦、子どもたちに無償で保健医療サービスを提供するとともに、周辺の村々で母子保健に関する巡回啓発教育活動も行い、女性と妊産婦の命と健康を守る環境づくりに取り組んでいます。

また、日本での役目を終えたランドセルをアフガニスタンの子どもたち、特に教育の機会に恵まれない女の子の就学に役立つ「思い出のランドセルギフト」の取り組みも進めています。

活動と成果

1) 母子保健クリニックでの保健医療サービスの提供

プロジェクト地域の妊産婦と女性、子どもたちのべ約 3 万 2000 人に対し、保健医療サービス及び産前・産後ケア、施設分娩、避妊薬（具）の提供、予防接種など母子保健に関連したサービスを提供しました。



（左上・右下）女性医師・助産師による産前健診 （右上）予防接種 （左下）乳児身体測定を行う男性医師

2) 母子保健の巡回啓発教育活動の実施



助産師の資格を持つヘルスエドゥケーターが、プロジェクト対象 10 村の各家庭を訪問し、のべ約 4800 人の女性に直接母子保健に関する大切なメッセージを伝えました。また、クリニックスタッフとも協力し、母子保健クリニックを訪れた妊産婦と女性のべ約 1 万 2000 人にも啓発教育を行い、4000 人を超える女性に個別カウンセリングを行いました。

思い出のランドセルギフト

[配付地域及び対象]

ナンガハール州ダラエヌーア、
カマ郡の小学校児童

[支援協力] ランドセル・学用品

品：個人、団体、企業（株式会社クラレ、アスクル株式会社、日本郵船グループ他）

アフガニスタンの貧しい農村地域では、紛争により多くの学校施設が破壊されたために、今でも多くの子どもたちが校舎のない青空教室で学んでいます。

その一方で、勉強したくても学校に通えない、また通い続けられない子どもたちもたくさんいます。特に女の子は、水汲みや農作業、家事など家の手伝いを期待されるために、就学できなかつたり、途中で退学してしまうことも少なくありません。

女の子は早ければ 12～13 歳で結婚させられることもあり、身体が十分に発達していない 10 代前半から出産を始め、何度も出産を繰り返すことにより、命を落とすこともあります。

女の子が教育を受けられれば、保健・衛生・栄養等の知識をしっかりと身につけて、将来、自分と家族の健康を守ることができるようになります。



そこで、ジョイセフは、市民社会の多くの方々の協力を得て、使われなくなったランドセルをアフガニスタンに寄贈し、子どもたち、特に教育の機会に恵まれない女子の就学に役立てています。2014 年は、市民社会の協力により、1 万 8704 個のランドセルを、学用品やろうそくと一緒に児童に配付しました。



ランドセルが寄贈された小学校では、先生の協力を得て保健衛生や疾病予防に関する保健教育指導も行っています。



現地より



「私には兄弟姉妹が8人います。家が貧しくてカバンやノートを用意することができなかったのですが、こんな見たこともないような素敵なノートをもらってとてもうれしいです。将来は、先生になって家族を支えていきたいです」

(左：デーガジ小学校 ミナさん)



「私の母は学校に行くことができませんでしたが、私は、父と母の強い勧めで、学校に通えるようになりました。勉強をがんばって、将来は教師になって、私と同じような女の子たちにたくさん勉強を教えたいです」

(右：カラ・アクード小学校 サニアさん)